

報道各位、

お世話になっております。

今号では、アーカスプロジェクト実行委員会の新しい事業と最新ニュースをお知らせ致します。

2012年2月より8月までの期間、つくばエクスプレス・関東鉄道常総線守谷駅東口の「Ours MORIYA」1階をイベント実施会場に利用させていただくことになりました。一時的に現れる「ARCUS Hour(アーカスの時間)」を広く市民のみなさまと共有したいと願っています。

各企画詳細は、次頁以降の資料をご覧ください。また、取材のお申し込み、お問い合わせにつきましては各担当まで直接ご連絡ください。

1) 平成24年度 国際公募アーティスト・イン・レジデンス事業募集開始 ■担当:小田井・杉山

公募期間:3月5日~4月30日

* 日本国籍以外のアーティストを対象

* 1994年の事業開始以来19年目の継続事業となり、日本国内では最も歴史の長いヴィジュアルアーツのアーティスト・イン・レジデンス事業です。

2) アーカスラジオ(微弱電波の公開ラジオ放送)のサテライトスタジオ開催中 ■担当:橋本

開催日時:3月10日(土)17:00-18:00 アーカスラジオ+いまを表現する青年団トーク03

3月24日(土)17:00-18:00 アーカスラジオ+いまを表現する青年団トーク04

(各回とも、参加無料)

会場:アワーズモリヤ 1F パティオ横「ARCUS Hour」

対象:どなたでもご参加いただけます。

* 毎回、地元守谷を拠点に活動する個人、グループをゲストにお招きしてお送りするアーカスの微弱電波による公開ラジオ番組(トーク形式)です。

守谷駅東口前に位置する複合施設「Ours MORIYA」を会場として始まる当トークシリーズでは、「地域・人・メディア・リアル」をキーワードに、それぞれ独自の方法で地域におけるコミュニケーションの場を創られている方々をお招きし、様々な街との関わり方や、人と人が繋がる場について考えていきます。

* 半径200メートルの範囲でラジオ電波をどなたでも受信することができます。88.0MHz

* アーカスラジオの放送は、当日該当時間帯のみアワーズモリヤの共有部分で館内放送を実施します。

<http://www.arcus-project.com/jp/event/index.html#120217185321>

3) アーティスト・イン・スクール事業説明会 ■担当:小田井

開催日時:3月30日(金)15:00-16:30 (参加無料)

会場:アワーズモリヤ 1F パティオ横「ARCUS Hour」

ゲスト:漆崇博(うるしたかひろ: AIS プランニング代表)

対象:守谷市民、アーティストなど

* 札幌市の公式事業「おとどけアート」、トヨタ子どもとアーティストの出会い事務局を務める AIS(アイス)プランニング代表 漆崇博氏をゲストに迎えます。平成 24 年度に郷州小学校を皮切りに、数年かけて守谷市内の小中学校を回る事業「アーティスト・イン・スクール」について、過去事例を紹介するトークです。

* AIS プランニング <http://ais-p.jp/>

アーティスト・イン・スクール「転校生はアーティスト」<http://inschool.exblog.jp/>

トヨタ子どもとアーティストの出会い <http://artists-children.net/>

4) ベルリンのいまのアートとアーティストたち(日本人アーティストのトーク) ■担当:小田井

開催日時:3月30日(金)19:00-21:00 (参加無料)

会場:アワーズモリヤ 1F パティオ横「ARCUS Hour」

ゲスト:森本誠士(もりもとせいじ):サウンドアーティスト:ベルリン歴 10 年)

対象:守谷市内の若い世代、近隣の若手アーティスト

ベルリン(ドイツ)を拠点に活躍するサウンドアーティストを迎え、いま最もアートの制作現場として注目されているベルリンの状況についてお話を伺う。単身でドイツに渡り、武者修行をしながら現地で活躍するまでになった成長過程を若い世代に共有することで、自立心や向上心の持ち方などのひとつのサンプルを紹介する。

□森本誠士(もりもとせいじ) サウンドアーティスト(プロフィール)

1971 年生。1996 年、国立音楽大学音楽学学科卒業。大学在籍時にジョン・ケージのエレクトロニクス作品の演奏、および自作サウンドパフォーマンス、サウンドインスタレーションを発表し始める。2003 年、ドイツ/ベルリンに移住。以降、数々の国際的フェスティバル 等に出品、出演。一貫してエレクトロニクスを用いつつも、石や水あるいは身体を組み合わせ、両者の間に起きる不確定な音の現象を探る。

<お問い合わせ先>アーカススタジオ TEL:0297-46-2600 E-mail:arcus@arcus-project.com

【添付資料 01|アーティスト・イン・スクールについて】

アーティスト・イン・スクール事業 in 茨城県守谷市

～現実に負けない、柔軟な思考の源であるイマジネーション豊かなひとを育てるために～

アーカスプロジェクトいばらきが 1994 年から、守谷市を拠点に運営してきた「アーティスト・イン・レジデンス」の地域発展版として、守谷市の小学校に「アーティスト」の「スタジオ(アトリエ)」を一時的に移動、出現させ、その小学校に通う子どもたちを第一の対象に、保護者・先生方・地域のみなさんとアーティストとの生きた交流を創出する主旨で行われる。毎年度数校ずつ実施し、三年間で市内全9校での事業実施を目標とする。

アーティストの最大の特徴は、発想すること、個人の発想を現実の事象へと変え(=制作・表現)、第三者の前に提出(=発表・公開)できることです。このプロセスを子どもたちが身近に触れる環境で実施するのが、「アーティスト・イン・スクール」という新しい文化事業です。

アーティストは特別な能力を発揮する希少な存在であり、特に子どもたちに紹介したいアーティストの側面は、一連の創

造活動をだれに命令された訳でもなく、宿題や課題でもなく、「つくりたいから」という個人の衝動を原動力にしてコツコツと成し遂げている(=創造)姿です。あまりみかけることのない「特殊な大人」の一サンプルとして、子どもたちに出会ってほしいと考えています。

「アーティスト・イン・スクール」は、学校のカリキュラムや授業枠を使用するということはありません。さらに、学校単位の見学行事や鑑賞教育として実施されるものでもありません。特別な強制力、枠組みを公使することなく、子どもたちの意思と関心を誘発するような環境作りを前提に実施するのが「アーティスト・イン・スクール」です。学校にアーティストがいるという「自分の学校に起こっている一時的な環境の変化」に対して、気になる子がスタジオに遊びに行く、気になるけど行かない、気配だけを感じる、というどのようなつきあい方も子どもたちの選択次第です。

一人一人が自分の個性を大切にし、的確な表現方法を獲得していくことで、自律的・創造的な人材を育成することができます。このように柔軟に鍛えられた精神を有する人材は、新しい地域を作る際の大きな力になります。というも、他者の感性/存在を容認できる多様性に富んだ豊かな地域を形成する根拠のひとつになりうるからです。

「アーティスト・イン・スクール」は、アークスプロジェクトの地域プロジェクト「どこでもアークス！」の一環として位置づけられます。

【2012年度 アーティスト・イン・スクール in 茨城県守谷市 事業概要】

守谷市内にある小学校 1-2 校に、アーティストが教室をスタジオとして利用しながら概ね 2 週間滞在し、小学校の中で制作を行う。

■実施校

守谷市立郷州小学校、ほか一校(選定中)

■実施期間

約 2 週間。周年事業に合わせた期間を小学校と検討。

*H24 年度に実施の決定した郷州小学校では、11 月 10 日の周年事業セレモニーでの成果発表を行う予定。

滞在制作は 4 月～7 月を候補に検討中。

■事業招聘アーティスト

事業実施初年度は特に、アークスの過去事業で招聘実績があり、アークス以降、国際的に活躍の場を広げている日本人アーティストを起用。

状況を見て、ほかのタイプのアーティスト起用も都度検討する。

□郷州小学校滞在アーティスト | 磯崎道佳(いそざきみちよし)

茨城県水戸市生まれ、北海道ニセコ町在住。

磯崎氏は、様々な表現形態、素材を通じて、誰もが持つ好奇心を引き出し、新しい視点を発見する場を制作・発表している。1968 年水戸市生まれ。現在北海道在住。1996 年多摩美術大学大学院美術研究科修了。2002 年、PS1/MoMA インターナショナルスタジオプログラムに参加(NY)。主なプロジェクトに、面識のない者同士による手紙の交換を目的

とした「パラシュートとマキオ」。参加者と巨大バルーンを制作する「ドーム/DOME プロジェクト」。雑巾で等身大の動物を制作する「ぞうきんぞう/Zokin Zo プロジェクト」、モップの生活/Life of Mop」等。

*2003 年に、アーカスプロジェクト「コミュニケーションプログラム(地域を対象にしたアート事業名称:当時)で招聘され、郷州小学校で「パラシュートとマキオ」ワークショップを実施した経験が有る。

■事業コーディネーター

事業実施初年度は、本事業のコーディネート実績のある外部団体の協力を得て、今後の専門コーディネーター育成も含んだプログラム運営を行う。

業務委託先(案): AIS プランニング <http://ais-p.jp/>

以上

【添付資料 02|ARCUS x Ours Moriya = Arcus H*our(アーカスの時間)】

■概要

関東鉄道、つくばエクスプレス「守谷」駅東口の複合商業施設の一部を、アーカスプロジェクトの地域プロジェクト「どこでもアーカス！」イベント会場として利用する。

■目的

1.アーカスプロジェクト活動の「見える化」

1994年から18年間に渡り、茨城県守谷市を拠点に事業展開してきたアーカスプロジェクトであるが、名称の普及はすすんだものの、「なにをやっているところなのかよくわからない」という市民の声を聞く。「Ours MORIYA」の空間は、路面でガラス壁面に覆われており、大きなショーウィンドウ、ショーケースのように見える。

この空間の立地と特徴を活かし、アーカスの日頃の活動を「アーカスがなにをやっているのか？」に見えるよう組み立て、市民に対して活動を見てもらいながら説明をするデモンストレーションを行う。

2.守谷在住の若い世代(10代~30代前半)のたまり場づくり

過去20年の間に地域外からの住民が移住したことで人口が増加した守谷では、すでに成人年齢を超えた「移住っこ」が大量に存在する。つくばエクスプレスが通り、都内への利便性が高いことか、彼らは守谷以外で勤務しているケースが多く、若い世代の生活の中に地元である守谷での滞留時間がほとんどない。気軽に立ち寄りやすい駅前で、平日夜間・休日日にプログラムを実施し、地域の未来を担う若い世代を守谷にとどめる工夫をする。

3.「どこでもアーカス！」の参加者層拡大

「Ours MORIYA」の利便性の高いロケーションを活かし、学びの里には来る事の難しかった市民層、守谷以外の居住者でつくばエクスプレス沿線住民などをプログラムに取り込むことを狙う。

■実施期間:H23年度(2012年2月~3月)、H24年度4月~8月